

トピックス Topics

「川口市市産品フェア2019」が 開催される ～ 知ろう・使おう・広げよう ～

「知ろう・使おう・広げよう」をテーマに川口で生産された市産品を集めた「川口市市産品フェア2019」が、10月25日（金）から27日（日）までの3日間にわたって川口市のSKIPシティで開かれた。その模様と2つの企業ブースを紹介する。

127社・団体、167ブースが出展

鋳物、機械、木型、植木など伝統と技術に培われた「川口ブランド」といわれる独自の名産品を数多く生み出してきた川口市。「川口市市産品フェア2019」は、川口市および奥ノ木川口市長を会長とする川口市市産品フェア実行委員会が主催し、「知ろう・使おう・広げよう」をテーマに、川口市で生産された市産品を一堂に集めた展示会。5回目の開催となった今回は、市内127社・団体、167ブースが参加、市内中小企業によるプレゼンテーション「かわぐち地域未来シンポジウム」、歌手のロザンナ氏、ばんばひろふみ氏をゲストに迎えての上映&トークライブ「ザ☆昭和歌謡 SELECTIONシリーズ」など多くのイベントが催された。今回は2つの展示ブースを紹介する。

1. (株) フジカ工業 代表取締役専務 小野田 純一氏

当社は1969年（昭和44年）9月に創業、71年（昭和46年）4月に法人改組したスポンジ・プラスチック・ゴムの製造・加工・販売業者。自動車、建設機械、浄水器などに内蔵されている樹脂部品の成型加工を軸に、パッキンなどの抜き打ち加工も手掛けている。川口の本社工場では抜き打ちパッキンを、加須工場ではゴムおよびプラスチック成型を手掛けている。

顧客は建設機械部品、機械装置などの関連部品、照明器具といった工業系メーカーが主体だが、自転車のショックアブソーバーなど一般個人からのオーダーにも対応している。今回は3回目の出展で、スポンジ、ゴム製品、プラスチック製品、ウォータージェット（水で加工する方法）の加工品などを展示。打ち抜き加工したスポンジをノベルティグッズとして無料配布した。

中でも目を引いたのがカメラケース。最新の自動油圧裁断機を導入したことで、従来よりも大きく厚みのあるスポンジの打ち抜き加工が可能となった。最大120mm程度までの打ち抜きが可能で、精密機器、計測機器などを保護し、製品価値を高めるケースの製作までを手掛ける。今回はデモ用にケースメーカーの協力を得て製作した一眼レフカメラとレンズのケースを展示した。あらゆる形状のものを安全かつスムーズに輸



送・移動するための「〇〇専用ケース」をオーダーメイドで製作する。

「弊社のセールスポイントは小ロットからの小回りの利く対応力です。お客様の要望を社内で共有化し、求めている製品をいかにタイムリーに提供できるか、“迅速・的確・丁寧”な対応を徹底しているところが強みです」（代表取締役専務 小野田純一氏）。

(株) フジカ工業 / 所在地：川口市南鳩ヶ谷7-6-9、電話：048-283-2251

代表者：加藤雅隆氏、小野田純一氏

<http://www.fujika-kogyo.co.jp/>